

八戸港

青森県県土整備部港湾空港課

〒030-8570 青森市長島一丁目1番1号
 ☎017-734-9673 FAX 017-734-8194
 URL : <https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kendo/kowan/>



1. 概況

八戸港は青森県の太平洋南部に位置する工業港、商港、漁港の性格を備えた重要港湾である。港湾修築の沿革は、大正8年の鮫漁港の工事に始まるが、昭和7年の完工を機に、商港整備第一期工事に着手、北防波堤、3千トン岸壁、物揚場等が同14年に完了した。その後、後背地における砂鉄、化学肥料等の臨海資源型工業及び水産業の発展に伴って港湾施設も拡張を続け、特に戦後の河原木第一工業港、白銀商港、及び八太郎第二工業港の築造等によって現在では東北有数の規模を有する近代港湾として発展を続けている。

この間の発展状況を若干詳述すると、昭和24年馬淵川の切替完了により旧河川敷を整備し工業港（現在の第一工業港）として使用することになり、昭和37年に整備を終了。この間、八戸火力発電所（33年）、日曹製鋼（現太平洋金属32年）の立地をみた。更に、この地帯の東端地区には、石油配分基地が形成され、日本石油、出光興産など十数社に及ぶ石油メーカー等の油槽施設の立地をみた。昭和39年、新産都市に指定されたのを契機に第二工業地帯の整備が促進されることとなった。

また、港湾の受入態勢も昭和26年の重要港湾の指定に始まり、その後40年には木材輸入港、44年には穀物輸入特定港、46年には植物輸入指定港の決定をみた。このような港湾建設受入体制の整備に伴って、港湾の伸張も著しく平成25年の港湾取扱貨物量は、約2,883万トンに達している。

平成6年には、東北で初めて外貿コンテナ貨物の取り扱いが開始され、現在では、東南アジア、中国、韓国、北米西岸との外貿定期航路や東京、横浜との内航フィーダー航路が開設されている。また、平成13年には、八戸港多目的国際物流ターミナル（八戸港2号埠頭コンテナヤード）が完成し、順調にコンテナ取扱貨物量が増加しており、北東北地域における国際物流拠点としての重要性が高まっている。また、八戸港は、臨海部に立地する企業によるリサイクルが盛んであり、平成15年4月には総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）に指定された。そして、平成27年4月にはLNG基地が操業開始している。

港湾施設の面では、公共施設として大型岸壁50,000重量トン級3バース、40,000重量トン級1バース、30,000重量トン級1バース、15,000重量トン級4バース、10,000重量トン級1バース、5,000重量トン級16バース、カーフェリー専用バースと

して5,000総トン級1バースが整備されている。

また、漁業資源の豊富な三陸沿岸に近く、水揚量も全国的に有数な港として知られており、特定第三種漁港の八戸港には小中野、鮫地区と、昭和38年から修築事業として開始した館鼻地区漁港があり、整備は順調に進められている。

交通政策審議会第36回港湾分科会（平成21年11月）において審議された港湾計画に基づき、北東北を代表する工業港・物流港としての物流機能強化、港への親しみ・利用面で地域住民等が享受できる魅力ある空間確保、省資源化への対応等の要請に対応出来る港湾の形成を目指して整備を進めているところである。

また、馬淵川の流下土砂による航路・泊地の埋没対策も緊急の課題となっており、航路・泊地の浚渫を行うとともに、これらの土砂を受け入れる施設として新たな土砂処分場を整備中である。

さらに、平成23年3月に発生した、東日本大震災による津波被害を受け、八戸港復興会議を設立し、復旧・復興方針を

1. 早期かつ適切な港湾物流機能の復旧
2. ハード・ソフトを合わせた総合的な津波・地震防災対策
3. 新たな取り組みによる港の復興

と定め、平成25年度から復興事業に着手し、令和元年7月末までに防潮堤、漂流物防護柵の整備、コンテナターミナルの受変電棟の防水対策及び、津波からの重機の一時的退避を目的としたふ頭用地と緑地の嵩上げ等の避難・減災対策工事が完成している。